まちの話題

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックス（ＳＯ）冬季世界大会が２月26日から3月５日までの８日間、長野市周辺の各会場でスキー、スケート、フローホッケーなどが行なわれました。それに先立ち、2月24日に諏訪地方で聖火を国際法執行者（海外の警察官や消防士、アスリート）と地元の警察官や消防士らが伴走者として参加し、富士見町から岡谷市まで聖火リレーが行なわれました。当日、開会式を富士見町の諏訪養護学校で行ないアトラクション、町長挨拶、プレゼント交換が行なわれ、誰にでも優しく接した国際法執行者に心の温まるものを感じました。また、ホストタウンとして受け入れていたマン島（英国女王を長とした、内政に関して自治権を持つ英国政府保護領）の皆さんもいっしょに参加され、改めて国際的なイベントである事を実感しました。

マン島のフロアホッケーチームは２月23日に当町に訪れ、練習をしたり、町内の障害者とも交流をし、25日に元気に長野の会場に向かいました。

３月４日（金）境小学校２年生27名が長野市のビックハット・ホワイトリングの両会場へ観戦応援にいきました。事前学習で作成したカラフルなアートフラッグを用意し、ビックハットではフィギュアスケート、ホワイトリングではフロアホッケーを応援しました。

フィギュアスケートでは、ペアの演技中に転倒したパートナーの元へ自分の演技をやめて駆け寄り抱き起こす姿に感動し、フロアホッケーでは、児童みんなで練習した「木やり応援」を力一杯行い、また本物の金メダルに触れることができました。

観戦応援時間は短かったですが、児童全員ひたむきに一生懸命にやる選手達の姿に感動しました。

※スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちに、様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している全世界的な活動です。

ホストタウンとしてマン島の選手を歓迎しました

町長は一つのことを一緒にできる喜びを分かち合いましょうと挨拶しました

境小２年生が作成したアートフラッグが一際目立っていました

笑いは心の栄養剤

町と町社会福祉協議会では３月12日、グリーンカルチャーセンターにおいて笑点メンバーの三遊亭楽太郎さんを講師にお迎えし、「笑いと健康」心・体・食～健康づくりアドバスと題して講演会を行ないました。会場は隅々まで満員の約500名が来場し、楽太郎さんの笑いが途切れない軽快なトークに酔いしれていました。何故女性は長生きするのか、ストレスとは何か、また母親が80歳過ぎても海外旅行に出かけた話など、笑いが心を開き長生きする秘訣であると納得いくように話されました。